

くれよん

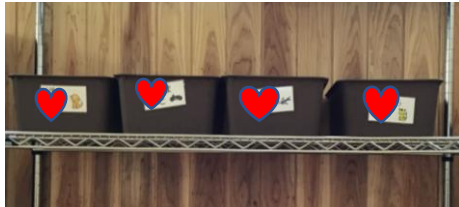
令和2年5月発行

発行：堂村朱里

新学期が始まり、ゴールデンウィークが過ぎ、環境の変化から一か月が過ぎました。世の中の的にはまだまだ落ち着かない日々が続いていますが、くれよんに毎日子どもたちが元気に来所してくれることで元気をもらっています。朝起きると「くれよん行く？」とお母さんに尋ねる子、家で「〇〇先生」「〇〇先生」と名前を言いよくお話するようになった子、一か月の間にこんなにも子どもたちが喜んでくれていることを親御さんから聞くと、私たち職員もより一層元気をもらい、やる気に満ち溢れているところです。くれよんの思いとして、午後の療育は親御さんにお迎えに来てもらい、子どもの様子、活動のねらい、成長の姿、お家での姿をお話し情報共有したいと思いお迎えに来てもらっていますが、毎日お仕事でお疲れの所、ご協力下さいましてありがとうございます。



【来所してからの様子】



子どもたちは来所すると、自分の名前とお印が貼ってあるカゴへかばんを入れ、お帳面とタオルを出し所持品の始末をします。ある日、職員がAくんへ「タオルを出してね」と声をかけると、首を横に振り、出そうとしません。今まで出していたのに「どうしてかな？」とタオル掛けを見ながら職員は考えました。「もしかして・・・」「あっ！そういうことか・・・」職員は閃き、Aくんへ尋ねてみることにしました。

職員「Aくんのタオルもお友だちのタオルみたいに紐付きがいいのかな？」

Aくん うなづく

職員「洗濯ばさみが難しい？」

Aくん うなづく

職員「じゃー今日は一緒に洗濯ばさみしてみようか？」

Aくん 「うん」

職員「上手にできたね。先生がお母さんに紐付きタオルにしてくださいと連絡帳に書いておくね。」次の日お母さんがすぐに実行して下さり紐付きタオルだったので、スムーズにかけることが出来ました。

子どもが起こす行動には何かしらの理由や意味があります。「何が嫌なのか？」「どうしたいのか」を職員が子どもの気持ちを察し伝え、共感することで、「わかってもらえた」と嬉しい気持ちになります。大人も子どもも同じ！「気持ちの共感」これは人間にとってとても大切なことです。共感から信頼関係が築けていけるのでしょうか。



『手は突き出た脳』

子どもたちは、遊びや活動、日常生活を通して指先を使うことで脳が刺激され発達すると言われています。親指と人差し指でシールをはがしたり、ボタンをとめたり、お菓子の袋を開けたり、日常生活にしていることが子どもたちの発達においてとても重要なことです。つい時間がかかってしまったり、「できない」とあきらめてしまったりする子に対して、大人が手を出してしまいがちです。実はその時がチャンスなのです。時間がかかってしまうときや出来ないときあきらめてしまうときに「どうしたら出来るかな」「こうやってみようかな」と考える力が子どもたちにはあるのです。つまり試行錯誤が大切です。そこには大人の見守る力も必要です。ぜひ時間があるときには見守ってみてくださいね。子どもたちなりに考えて試行錯誤している姿が見られいろいろな発見がありますよ♪

『箸の練習』

子どもには発達段階があります。スプーンやフォークが正しく持つことができたら箸を持つ練習をしていきます。4月の保育所等訪問支援にて保育園の先生へ箸の練習の仕方をお伝えし情報共有してきました。



箸を持ったときに、グー握りの子。
箸を持つ練習の前に、スプーンやフォークで正しく持つことが大切です。



箸を持てるが持ち方や指の開閉が難しい子。箸の練習にクリップを使います。人差し指をクリップに入れ開閉、手の形を練習していきます。